

事例紹介大学等のプログラム概要【各地域での実施】

〔九州・沖縄地区〕

1. 大分大学（平成20年度選定）

プログラムの名称	不登校傾向の学生へのアウトリーチ型支援 ーキャンパス・ソーシャルワーカーとの協働による学生の自己選択能力の形成支援
(プログラムの概要)	
<p>近年の学生には人間関係や学習面の困難を契機として、不登校がちとなって休学や退学に結びつく事例が増えている。こうした学生は学生相談に対しても引きこもることが多く、従来の学生支援のネットワークからはみ出る形になっている。</p> <p>本取組では、「支援チーム」が中心となって策定する段階別の支援計画に基づき、不登校傾向のある学生に対して、「心理・社会的支援」「家族支援」「修学支援」を総合的に展開し、学生の自己選択能力の形成を支援する仕組みを確立する。具体的には、指導教員や臨床心理士等による面談に加え、キャンパス・ソーシャルワーカーによる不登校学生の自助グループと居場所づくり、専門医による家族相談及び家庭訪問、学生チューターと修学アドバイザーによる修学支援を組織的かつ継続的に行い、従来の「待つ」支援からアウトリーチ型支援（「出ていく」及び「出ていきたくなる」）へ取組を進化させるものである。</p>	

2. 京都光華女子大学（平成20年度選定）

プログラムの名称	学生個人を大切にした総合的支援の推進 ーエンrollment・マネジメントと個別対応教育モデルの実践的融合
(プログラムの概要)	
<p>本学では、個々の学生に対する入学前から卒業後にいたるまでの総合的な学生支援によって不安や疑問を解消するとともに、個別対応教育によってより高度な水準で教育理念と学力の達成を図るというエンrollment・マネジメントを全学体制で実施している。</p> <p>本プログラムは、それをさらに推し進め、①基礎学力、学習意欲、生活実態といった広範な学生評価情報についてのアセスメントの体系化、②特別な配慮を要する学生へのトラッキング・サポート（不登校ゼロ計画）、③ラーニングコミュニティの創出によるピアサポートの充実という3施策を有機的に接合することによって、学生支援と教育モデルの統合度をさらに高め、隙間と取りこぼしのないサポートを実現し、創発的な学生支援効果を増幅させる試みである。</p> <p>プログラム完成時には、全学年のGPAを0.5ポイント改善し、退学率を2%台にまで低下させることを目的とする。</p>	

3. 別府大学短期大学部（平成19年度選定）

プログラムの名称	進路支援対策一貫システムの構築
(プログラムの概要)	
<p>本学の学生は、ほとんどが地元高校出身であり、卒業後は県内企業等への就職や大学への編入学を希望している。また、最近、就職では即戦力となる人材が求められており、パソコンやコミュニケーション能力が重視されている。これらに的確に対応するため、本学では各種進路支援対策を講じてきた。今回の内容は、地域総合科学科のこれまでの対策の充実を図り進路支援対策の一貫システムを構築するものである。主な内容は、①大分校に進路支援プラザを新設し、進路支援の充実、情報検索のためのパソコンの整備。②入学前の学生に対する先輩との懇談会新設、③1年前期の進路対策講座や宿泊セミナーの充実。④1年夏休みの基礎学力充実講座の新設。⑤1年後期の進路対策講座の充実、先輩との懇談会、産官学連携のシンポジウム、教職員のFD研修新設。⑥1年春休みのインターンシップ交流の新設、進路対策講座の充実。⑦2年次の進路選択実践講座の新設等である。</p>	